

『法から学ぶ文化政策』

(T.S・学部生・10代)

文化政策と聞くと「芸術」を連想するため、なかなか法律と結びつきにくい。しかし、絵画や遺産、さらにはスポーツなども「文化政策」の範囲であり、日本の法律や世界の規約などが密接に関わっていることを本書で知った。全部で15の項目で構成されており、「これも文化政策に入るのか」と思うものも多く、「文化政策＝芸術＝絵と音楽」という固定概念が取っ払われた。文化政策のことのみならず憲法や国際法の特徴、法律の作り方などについても分かりやすく記述されているため、法学部でない大学生や芸術に関心がある高校生にも読みやすいものとなっている。表やグラフも所々で用いられているため、膨大な量の法律や著作物の種類も視覚的に把握することができた。

改善すべき点としては、分量が多いことである。様々な項目に触れたり初学者にも分かりやすく説明したりしているため分量が多くなるのは当然なのであろうが、書店でパラっと開いたときにはその文字の多さに圧倒されてしまう人もいるかもしれない。読み始めれば内容は分かりやすいし懇切丁寧な記述が続いているのだが、分量だけ見て読むのを諦める人も出てしまいそうだ。